問：館山市市民アンケートについて。施策に対する評価の重要度では「新たな雇用の創出と就業支援の強化」が1位だが、満足度の低い施策とみられている。今後の取り組みを伺いたい。

答：現在、様々な方法で企業誘致を推進し、「企業立地奨励金」や「雇用促進奨励金」による支援や「創業支援セミナー」「安房地区合同進路セミナー」を実施して、企業誘致と市内企業の支援をしている。

解説：館山市総合計画策定に際して行われた、市民アンケートの結果を踏まえて質問をしました。このほかに、市民からの意見や要望が多かった、行政の災害対応や高齢者の移動手段の確保、移送サービスの充実について質問をしました。

◆補正予算質疑

学校給食センター 臨時対策事業について

運営費及び調理・搬送委託費の増額について、対象となる期間や運営委託費の内訳を伺いました。また、学校給食事業について、公費負担期間を令和3年1月分とした理由を伺いました。

解説：補正予算では、新給食センターの完成が遅れているために、現センターでの運営費の12月までの増額と、通常給食の提供が1年以上できない状況下で、生徒児童の保護者の負担が大きいため、新給食センターが稼働する1月分の給食を無料にするための予算が計上されました。

これらの予算計上は賛成ですが、このことに関連して、簡易給食の状況等について質問をしました。NHKの首都圏ニュースで、給食メニューがご飯、牛乳、ふりかけのみと報道されたために、市外の視聴者から心配の声が各所に届きました。そこで、現状を改めて問いましたが、子供たちは各家庭ごとに、弁当持参あるいは副食を持参して簡易給食のいずれかの選択をしています。日によってレトルト食品が添えられる日もあります。しかし副食を持参せずにご飯、牛乳、ふりかけというような昼食を済ませる子供も数名いるとのことで、このような実態をどうするかが教育の果たすべき役割だと述べました。

工事が進む新学校給食センター（北条小隣）

◆令和2年第2回定例会（6／12）

館山市における 新型コロナウイルス 感染症の影響と対策

問：感染症による地域経済への影響をどのように把握しているか。また、将来に向けた独自の活性化策を伺いたい。

答：館山商工会議所の「新型コロナウイルス感染症の影響に関する緊急調査」では売上等のマイナスの影響があると回答した業者が88.4%。観光業においては4月5月の入込は8割から9割減。農業では館野、豊房地区のいちご狩り園が予約キャンセルにより閉園。水産業では活魚、鮮魚や高級な魚介類の価格下落などの影響があった。

将来に向けた館山市独自の活性化策は、前澤友作基金を活用し、館山市中小企業融資制度の「新型コロナウイルス感染症対策資金」や「中小企業等事業所家賃支援事業」を実施。また、引き続き食のまちづくりの推進に取り組み、拠点施設の整備を検討するなど、ソフト面とハード面において、館山の食の恵みを地域内で流通させる環境を構築する。

解説：前記のほか、国の第二次補正予算による地方創生臨時交付金活用についても、市の活性化と産業振興のための重要施策を明らかにしたいとの趣旨で質問を行いました。

新聞報道では、4月の南房総地域の観光入場者数は90.3%減、宿泊人数は93.4%減と壊滅的な状況となりました。観光立市館山としては臨時交付金を活用して、事業者がこれまでの事業実績を越えられるような新たな成長戦略を構築するチャンスと述べ、さらに、食の流通拠点構想が示されて5年が経過する中で、計画内容が市民に十分な理解を得ていないことから、拠点の機能、コンセプトを広く示すことを要望。建設予定地で開催される館山マルシェ出店者や来場する市民のための拠点づくりへの期待が大きいことを述べました。

展望

前澤基金活用と観光戦略

昨年の台風被害に追い打ちをかけるように、新型コロナウィルス感染症で館山市も大きな痛手を受けています。この状況を打破するため、特に観光による経済効果に期待をしつつ、地域産業の活路と維持継続のための活性化戦略が求められます。

このような折、ふるさと納税による前澤友作氏20億円の寄付は、これまで財政状況の悪化を理由に中断していた「食のまちづくり流通拠点整備」構想を現実のものとしました。（前澤氏の了解を得てコロナ感染症対策にも一部活用）。私自身かねてから、道の駅構想を含め流通拠点整備の必要性を強く唱えてきましたが、農水産業や商工業、観光関連の飲食、宿泊、サービス業等の市内事業者一丸となって、一日も早い完成を求めたいと思います。

市民の出会いと憩いの広場、「食のまち」に

前澤寄金の活用については、市民からの意見要望を吸い上げるべきとの声もあり、拠点整備について協議を行っている「食のまちづくり協議会」（農協、漁協、商工会、観光協会、商店会等の代表者で構成）は、館山市の発展のため、どのような施策が良いかを検討しています。特に、豊富な食材を生かした「食のまち」をテーマに、来訪者に魅力を感じてもらうことや、食のつながりによる地域産業の連携強化などが話し合われています。

また、流通拠点を「道の駅」にすることにより、物産の流通だけではなく、情報基地として、来訪者を館山市の歴史や文化へ誘う案内機能も期待できます。

道の駅建設予定地で開催される「館山マルシェ」

南房総市では道の駅が8駅あり、それぞれに地域の特色を生かす取り組みが行われています。いっぽう館山市には市内全体の産業振興を目的としたものはなく、この拠点整備計画は平成27年に示されたものの、三中や給食センターの建て替え等の財政的な理由により棚上げされてきました。

市の魅力アップの拠点に

現在、ようやく拠点の管理運営など、民間事業者の公募に向けた準備が始まっていますが、気がかりなことがひとつあります。それは、この流通拠点はあくまでも市内産業の各事業者と市民のために機能しなくてはならないのですが、拠点を任された事業者がどこまでその目的を果たしてくれるかということです。

また、他地域の道の駅との違いや特色をどのように作りだすかも重要です。民間事業者は営利を目的として、効率化や合理的な経営を目指します。しかし、多くの市民の関りを求めた場合、福祉や教育など様々な分野との連携を作り出すことが出来ます。

農福連携、食育活動、高齢者の健康保持は一次産業と密接に関係します。また、各種のイベント開催は、集客だけではなく開催する側の活力を生み出します。マルシェ（朝市）だけではなく演劇、ミニコンサートなど、市民の文化活動を支える拠点にもなります。

このような、直接収益につながりにくい取り組みも、館山市の魅力向上、ひいては市民に豊かさを実感してもらうことにつながると思います。今後、業者選定に際しては、館山市としての長期的な展望に立ち、安易な方向に走らないように、注意深く取り組んでほしいものです。